

● 教室(診療科)の特色 ●

「精確・迅速・チームワーク・思いやり・探究心」を基本理念と掲げ、他の中央診療部門と密に連携し、日常診療に貢献します。

大坂 直文(おおさか なおふみ) 特務准教授

■ 専門分野

上部消化管

■ 主な学会/専門医資格

日本消化器内視鏡学会・指導医

日本消化器病学会・専門医

日本内科学会・認定医

● 診療科の概要・特徴 ●

- ① 病院病理部や輸血室など中央診療部門と連携し、日常診療に貢献しています。
- ② 患者臨床像と乖離した検査データの矛盾点を解決するなど実地医療に即した臨床研究を実施しています。
- ③ 日本臨床検査医学会認定研修施設ですが、臨床検査専門医^{注1)} 臨床検査管理医^{注2)} の取得を希望される際は、あらかじめ担当者にご相談ください。
- ④ 感染対策室と連携して病原微生物同定と院内感染制御を実施しています。

注1) http://www.jslm.org/recognition/control/senmoni_rule.

注2) http://www.jslm.org/recognition/specialist/kanrii_rule.

● 教室(診療科)指導医・上級医 ●

氏名(職掌)	専門医	参加学会
松村洋子(講師)	日本内科学会総合内科専門医、リウマチ専門医 臨床検査専門医	日本内科学会、日本リウマチ学会、日本臨床検査医学会
宮崎彩子(非常勤講師)	臨床検査専門医、臨床遺伝専門医	日本臨床検査医学会、日本人類遺伝学会 日本遺伝カウンセリング学会、日本臨床化学会
柴田兼作(助教)	日本内科学会総合内科専門医、日本循環器学会専門医 日本心血管インターベンション学会専門医	日本循環器学会、日本内科学会 日本心血管インターベンション治療学会 など
大濱日出子(助教)	日本内科学会総合内科専門医、日本肝臓学会専門医 日本消化器病学会専門医	日本内科学会、日本肝臓学会、日本消化器病学会 日本超音波医学会、日本消化器内視鏡学会
北原 光(助教)	小児科専門医	日本小児科学会、日本小児神経学会、日本てんかん学会 日本児童青年精神医学会、日本新生児成育医学会 日本小児救急医学会、日本アレルギー学会

初期臨床研修プログラムの特徴

初期研修2年目に選択希望診療科として中央検査部を選択した初期研修医を対象に研修を行います。期間は原則として2ヶ月で、それ以上長期にわたる研修は希望に応じて設定します。

【一般目標】

臨床各科の外来と病棟で必要とされる基本的臨床検査の適応や解釈を学び、診療科としての臨床検査部門、即ち中央検査部で実施される臨床検査の基本事項や基本手順を理解する。同時に測定原理や異常値発生機序についても学修する。中央検査部は中央採血室、

受付・情報室、生理(機能)検査室、尿一般検査室、血液・凝固機能検査室、化学・免疫検査室、細菌検査室に分かれており、各検査室を巡回して学修することになります。さらに輸血の基本も学んでいただくため、本学附属病院輸血室も経験していただく予定です。

■ 連絡先：大阪医科薬科大学病院中央検査部 TEL:072-683-1221

■ ホームページ：<http://www.osaka-med.ac.jp/deps/kns/main.html>

【行動目標】

1. 検査の特性(感度、特異度、偽陽性、偽陰性、検査前確率(予測値)、尤度比、誤差、測定値の変動を説明でき、基準値、カットオフ値を実際に設定できる。
2. 正しい検体採取の方法を説明でき、不適切な採取を行なった場合の検査値異常を判断できる。
3. 尿検査の目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈出来る。
4. 血液・凝固機能検査の目的、適応と異常所見を説明し、実際にGiemsa染色標本を作製し、所見をとることが出来、結果を解釈出来る。
5. 生化学検査項目を列挙し、それらの目的や適応と異常所見を説明出来、結果を解釈出来る。
6. 免疫学的検査の目的、適応と異常所見を説明でき、結果を解釈できる。
7. 自己抗体を列挙でき、臨床的意義を説明できる。
8. 一般細菌の塗抹・培養検査の目的、適応と異常所見を説明でき、実際にGram染色標本を作製でき、結果を解釈できる。
9. 腫瘍の遺伝子診断を概説できる。

後期臨床研修プログラムの特徴

後期臨床研修では、レジデントとして2年間、専門医を目指す研修医は3年間の研修を行なっていただきます。専門医を目指すレジデントは専門医機構が承認する臨床検査専門医研修プログラムに沿って研修を進めることとなります。2年間の研修では専門医研修プログラムの内容を適宜圧縮したプログラムで研修を行います。

【一般目標】

中央検査部での日常的検査業務は採血(中央採血室)、試料回収・運搬・受付・情報処理(受付・情報室)、一般・尿検査(尿一般検査室)、生理検査(生理検査室)、血液・凝固機能検査(血液検査室)、生化学・血清検査(化学検査室)、微生物検査(細菌検査室)、遺伝子検査(遺伝子検査室)から、成り立っています。さらに輸血関連検査(輸血室)があります。臨床検査専門医として、これら日常業務を行なえる十分な知識と技術を身につけ、専門医に必要最低限の実務を経験することを目標とします。さらに臨床検査医学の発展に寄与する研究意欲の涵養と能力の獲得も目標となります。

【行動目標】

1. 臨床検査の法的基盤、倫理基盤を解説できる。
2. 臨床医学における臨床検査の位置付けや意義を十分に説明できる。
3. 臨床検査医学総論の基礎的項目を説明でき、臨床検査の現場で活用できる。
4. 各検査部門の業務内容を説明でき、主たる検査項目や検査件数、検査機器を述べることができる。
5. 技師の助力のもとに主たる臨床検査を実施でき、指導医の指導のもとに結果を解釈した上で報告書を作成できる。
6. 指導医の指導のもとにコンサルテーション、アドバイスサービスを行なうことができ、記録を作成できる。
7. 臨床カンファレンスで検査や異常値に関する説明を行なうことができ、R-CPCで発表、発言できる。
8. 検査室の業務運営管理(マネジメント)の補助を指導医の指導のもとに行なうことができる。
9. 臨床検査医学会等の関連学会で発表し、論文を作成できる。

プログラムに参加する医療機関等

当分の間は、本院中央検査部のみでの研修とします。

評価

研修記録、自己評価表、指導医が評価記載した評価表、種々の学会への参加記録や投稿論文、および研修終了時の面接による評価を総合して評価します。

取得できる資格

日本臨床検査医学会認定臨床検査管理医、日本臨床検査医学会認定臨床検査専門医、(日本輸血・細胞治療学会認定認定医、日本超音波医学会認定超音波専門医、日本臨床神経生理学会認定専門医、日本リウマチ学会登録ソノグラファーも取得可能ですが、取得申請資格については別途学会が要求する学会活動歴や研修履歴が必要です。)

参加学会等

日本臨床検査医学会、日本臨床検査自動化学会、日本輸血・細胞治療学会、日本超音波医学会、日本臨床神経生理学会、日本リウマチ学会

大学院における教育・研究活動

中央検査部には大学院は設置されておらず、希望すれば大学院設置教室への出向を検討します。

週間スケジュール

代表的なスケジュール例として超音波検査研修時のスケジュールを示します。

	午 前	午 後	夕 方
月 曜 日	指導医による指導・自己学習	超音波検査研修	自己学習
火 曜 日	超音波検査研修	超音波検査研修	カンファレンス
水 曜 日	指導医による指導・自己学習	超音波検査研修	自己学習
木 曜 日	超音波検査研修	超音波検査研修	研究会・セミナー
金 曜 日	指導医による指導・自己学習	超音波検査研修	R-CPC(月1回)